次郎長
題字　竹内宏
次郎長翁を知る会
会報「次郎長」
37号
平成30年6月1日発行
発行／編集
次郎長翁を知る会
会長　山田健司

壮士墓建立一五〇年に想う

―次郎長の精神と魂―

次郎長翁を知る会　会長　山田健司

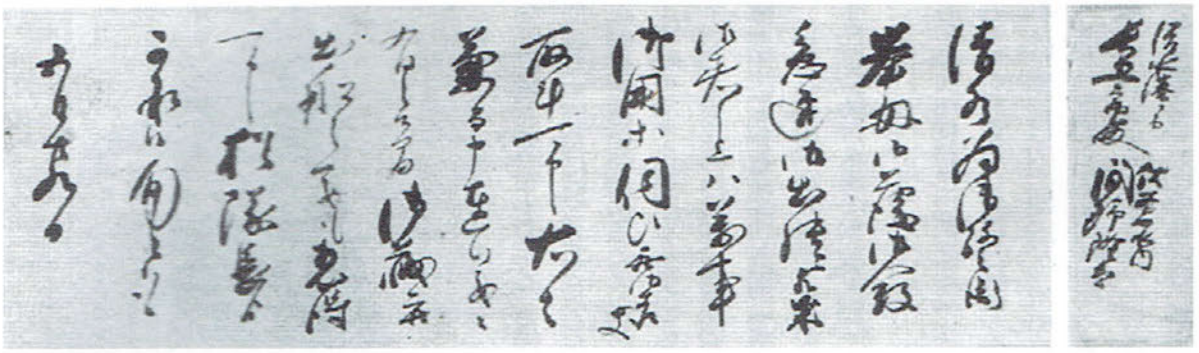
慶応四年の春、駿府の町は騒然としていた。駿府城は徳川幕府から大総督率いる東征軍に引き渡され本営となって周辺は兵士たちであふれていた。駿府の治安は不安定であった。有栖川宮大総督は浜松藩士伏谷如水に駿府の行政を掌るよう命じた。

伏谷如水像

その頃次郎長は清水湊の上二丁目に住んでいた。四月のある日、突然、駿府町差配役判事伏谷如水から出頭を命じる書状が届いた。次郎長は自身の罪多き身を覚悟して出かけた。呼出しは罪の追求ではなく、街道筋の探索役の任命であった。

次郎長は意外な命に驚き強く固辞した。すると隣の部屋から出てきた男を見て次郎長はびっくりした。なんと最近次郎長の上二丁目の家によく出入りする足袋売りの商人ではないか。

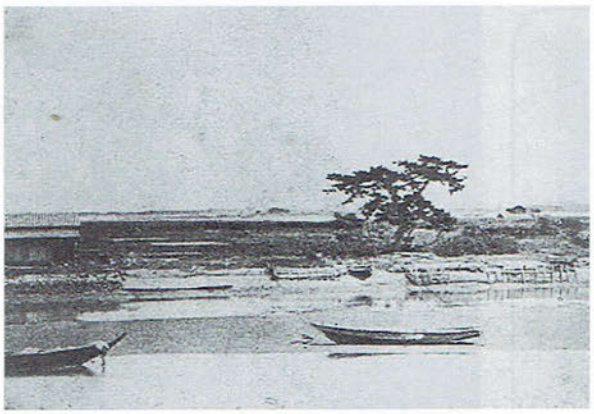
如水は無警察状態の駿府周辺の治安維持に当たる人物として次郎長に白羽の矢を立て、配下の者に密かに探らせていたのだ。



伏谷如水配下の間野隆太が次郎長に宛てた清水港警固役の御用状

それまでの罪状を含め全てお見通しの如水の「時代は変わったのだ」の言葉に、次郎長はこの命を断るすべをすでに失っていた。そして駿府城が徳川家に引き継がれるまでの四月から七月までの四ヵ月間、次郎長は帯刀を許されて伏谷如水とコンビで清水港警固役をつとめた。

江戸が東京と改称されそして明治と改元されて十日後の九月十八日、清水港内で突然咸臨丸事件が起きた。砲声が清水の町に轟き騒然となった。咸臨丸の旧幕府軍は白旗を掲げたが、新政府軍は三艦で一方的に攻撃して犠牲になった遺体は港内に捨てられた。



明治初期の向島　遺体は松の根元に埋葬した

清水港内に浮遊する遺体は、「厳罰を処す」のお触れを怖れて誰も処置する者はいなかった。次郎長はこの現状と漁師たちの訴えを黙って見ているわけにはいかなかった。既に任期を終えた伏谷如水を浜松藩まで送って清水港警固役を解かれた後であったが、密かに子分たちを集めて遺体を収容し、向島の松の根元へ手厚く葬った。山岡鉄舟はこの義挙に墓碑銘を「壮士墓」と揮毫した。

今年は咸臨丸事件が起きて次郎長が壮士墓を建立して百五十年を迎える。

おもえば山岡鉄舟は次郎長の侠骨を喜び、「この世相のなかで到底小人輩の出来る芸当ではない」と讃えた。

日露戦争のとき、旅順港閉塞作戦のため壮絶な戦死を遂げ軍神として祀られた広瀬武夫中佐は、清水港に寄港するたびに「末廣」を訪ねて武勇談を聞いていた。その広瀬武夫は、海軍中佐でのちに子爵となった小笠原長生に「清水港に寄港したら清水次郎長に会え、小才子ばかりがうようよしている当世に、大木の様に線の太い男がいるかと思うと実に愉快じゃ、俺が紹介してやる」と次郎長を称賛して紹介状を書いた。

梅蔭寺次郎長銅像と小笠原長生

小笠原長生は次郎長とはじめてあった晩、夜を徹して話をした。「実に大きな人物」と侠客の華やかな行動のみが伝えられているが、晩年の平和的な次郎長の姿に真実を見たと、会った時の様子を『私は見た・決定的体験』に書いた。

明治二十四年、次郎長は清水港に寄港した軍艦「天城」を小笠原長生の案内で見学したときのことだった。

明治元年九月の咸臨丸事件のことを思い出し若い士官たちに話した。「徳川方の人も官軍の人も、みんな天子様の御家来で同じ日本人だ。死骸をそのままにしておくことはできない。死んでしまった者に敵も味方もねえ筈だ。俺が引き受けて葬ってやろう。お裁きを受けてもいいと思ってやった」と法悦にひたったようなやすらかな顔で話したという。

小笠原長生は昭和十七年（一九四二）次郎長五十回忌に自らが会長となって「次郎長顕彰会」を設立した。戦後になって昭和二十八年（一九五三）次郎長六十回忌に小笠原長生八十七歳のとき壮士墓境内に「是真侠魂」の碑を建立した。「これ真の侠客魂なり」の顕彰碑は次郎長の高義を永遠に伝えることにあった。

今年は次郎長が壮士墓を建立してから百五十年を迎える。咸臨丸事件が次郎長に与えた影響は大きかった。次郎長は変わったが、世間も次郎長に対する見かたが変った。改めて次郎長の「弱きを助け、強きをくじく」の義侠心の精神と魂から今、我々は学ぶべきことが多くあるように思えてならない。

特別記念事業のお知らせ

来る九月一七日（祝・月）に「咸臨丸事件・壮士墓建立一五〇年記念事業」を開催する予定。

・供養祭　壮士墓境内

・講演会　清水テルサ七階

講師は「咸臨丸子孫の会」の榎本隆充氏（榎本武揚曾孫）、植松三十里氏（静岡市出身・歴史作家）

尚、詳細は後日お知らせいたします。

榎本武揚
（1836～1908）

『次郎長さん』から学ぶ骨太な生き方

―地元の清水小学校四年生の授業に次郎長や鉄舟の生き方を―

清水小学校教諭　小泉　達生

郷土の偉人を「次郎長さん！」と、子供たちは愛着を込めて呼んでいます。

・「次郎長さんは人を殺してしまったけどやり直せた。だからぼくも、ちいさな失敗でもやり直せば、ぱん回できることがわかった。（男子）」

・「私は次郎長さんのように、勇気があって優しくて、仲間思いの人になりたいです。これからはけんかをせず、みんなにゆずってあげたりもしたいです。（女子）」

・「人をまもること。いじめをしないこと。そして『精神満腹』であること。私の座右の銘も『精神満腹』です。（女子）」

これらは社会科で『清水の次郎長と清水港』を学習した後の、四年生児童の感想です。

私は郷土の歴史の学習で、いつも大切にしている願いがあります。

先人と対話する授業を通して、夢や憧れを持ち逞しい気力や前向きに生活を切り拓こうとする「生きる力」を育てたい。

次郎長の授業では、①次郎長の生誕から最後までの全人生を、丸ごと扱う。②重要な決断を迫られる節目で立ち止まり、次郎長と同じ目線で考えさせる。（特に、咸臨丸事件で次郎長は何を考えどんな行動をとったか、を重要な課題とした）③次郎長生家、梅陰禅寺、船宿末廣、美濃輪稲荷神社、壮士墓などの史跡を実際に訪ね歩く。

以上を心掛け、四つのテーマに沿って十時間の授業を行いました。

第一単元　「清水次郎長はどんな人物か」

一時　次郎長を知っているか

二時　前半生をたどろう（明治以前）

三時　咸臨丸事件での行動と考え方

四時　師匠の山岡鉄舟との深い交流

第二単元　「次郎長が成し遂げたこと」

五時　清水湊から清水港への発展

六時　世のために尽くした次郎長

第三単元　「次郎長の生き方・足跡を辿る」

七時　一貫している生き方は何か

八、九時　史跡を歩いてたどろう

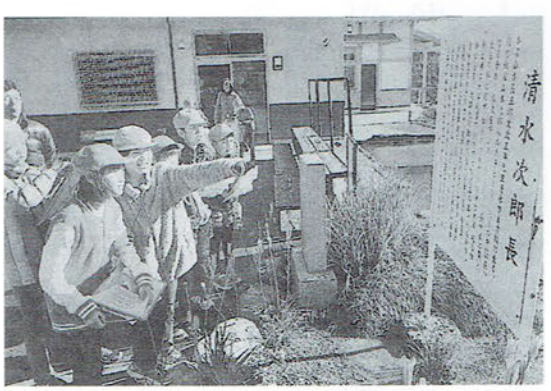
第四単元　「次郎長から教えられたことは」

十時　学習を振り返ろう

＊　＊　＊

次郎長の人生の師匠である山岡鉄舟を、道徳の授業で扱いました。命の危険を顧みず駿府に向い、西郷隆盛に「江戸城無血開城」を迫った場面を中心に皆で討論しました。

平和で豊かな世に生きる子供たちが、郷土の偉人の「骨太な人生」を学ぶ意義は極めて大きい、と私は信じて止みません。



現場で学習（静岡新聞平成29年11月25日より）
次郎長も「実地で」が口癖の現場主義者だった

「〝次郎長の授業〟を参観して」

小泉先生のお誘いで編集子もこの授業に参加した。はじめは正直、小学四年の子供に〝次郎長〟は難しいのでは？と思っていた。先生は場面々々で立ち止まり子供達に「次郎長さんは？鉄舟さんは？この時どうしただろう？」と考えさせた。すると子供達は自由な発想で活発な意見を連発。これには度肝を抜かれた。そして意見を積み上げるうちに、いつの間にか皆の中で次郎長像が出来上がっていったのである。「何が正しいか？自分ならどうするか？」次郎長の生き方は、子供の目や心にも純粋に響くものを持っている。それを実感した授業でした。

「次郎長生家の復元」

―次郎長生家の改修を実現させた軌跡と想い―

特定非営利活動法人　次郎長生家を活かすまちづくりの会
理事長　牧田　充哉

昨年、七月八日、無事にその日を迎えることができました。

念願だった〈次郎長生家〉の修復を終えた落成式の日のことです。

それは今から五年ほど前に遡ります。個人的に仕事の面でも縁が深い次郎長さんの生家の雨漏りの修理の話が進んでいることを知って少しでも役立てることができないだろうかと思ったことからでした。

大事な観光施設でもある「次郎長生家」の雨漏りだけでも直したいと同じ思いを持った有志は平成二十五年三月に「次郎長生家を活かすまちづくりの会」を設立、まずは修理費を捻出するために三〇〇万円を目標として様々な募金活動を行なってきました。

次郎長生家復元工事落成式にて牧田氏（右）

「歴史街歩きウォーク」、小学生を対象にした「次郎長通りスタンプラリー」、地元ミュージシャンによる「次郎長ライブ」、旅行会社に協力してもらい神奈川からツアーも組んで現状を知ってもらうなど…。

色々なイベント展開を試みましたが寄付金はなかなか集まりません。そんな中、偶然にも東京の建築資材会社NCN様がSNS上で開催した「あなたの残したい建物コンテスト」の存在を知ります。全国から歴史的価値ある建築物を募集して、Facebookで〝いいね！〟を一番多く獲得した候補者にはその会社が事務局を務める「耐震一〇〇％実行委員会」から修理費用を支援してもらえるものというものでした。ノミネートしたものの全国からの応募数はなんと五〇〇件ほど！優勝など夢の夢と思っていたら、デッドヒートを展開しながらも結果はなんとグランプリ獲得!!

耐震を兼ねて復元した次郎長生家の外観

これは次郎長さんの持つ〈強運〉と言うしかないのです。

この話題は新聞・テレビ報道でも取り上げられて地元のみならず全国へと広がっていきました。これを機に地元の大企業の皆さまのご理解も得ることができて、大変多くの方々からもご支援を頂き、単なる雨漏り補修から耐震を含めた完全な復元工事へ向かったのです。そして平成二十九年七月八日、多くの関係者の方々が見守る中、落成式を迎えることができたのです。昔のたたずまいを復元しながら一〇〇年後にも残ることができる生家。

そして嬉しいことに昨年十一月には国の有形登録文化財の指定の内示も頂きました。

この結果は各分野で才能のあるメンバーに恵まれ共に活動できたこと、そしてなによりすべてのタイミングにおいて発揮される〝次郎長さんの勝負運〟によるところが大きかったのだと思います。

そして、これから私たちにできることは何なのか？勿論、修復だけで終わるつもりはありません。それは次世代の方々へ単なる「渡世人・博打打ち」ではなく、後半生に多くの功績を残した次郎長さんを語り継いでいくことだと感じています。

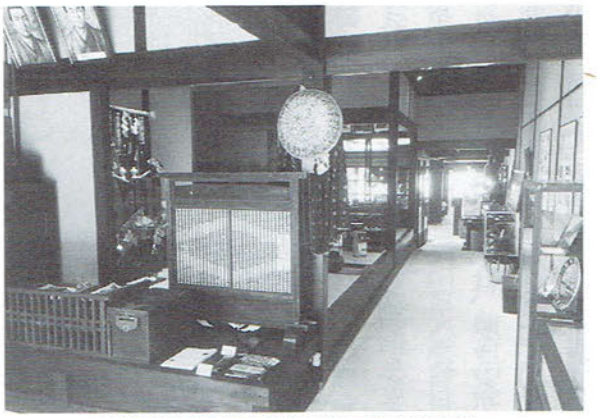
昭和三十年代のその人気は当時のチャンバラ劇の人気によるものですので、どう

来訪者に人気の『勝ち札』
強運もまた次郎長の魅力の一つだ

うしても次郎長さんには〝切った・張った〟のイメージが強く、今まで映画でもドラマでもその部分しか取り上げられていない。

でも地元の人は次郎長さんがこの地で何をしたかを知っている。私はそんな環境の中で育ってきたせいか、次郎長さんが四十九歳以降に地元静岡の為、清水の為にやってきてくれたことを、今度は私たち世代がしっかりと彼の人生を語り継いでいくべきだと思っています。このまま、ただの「海道一の大親分」で終わらせたくない。

生家の修復が一区切りついた今、私たちの活動は今後、次郎長さんの後半生の活躍をどう次世代に伝えていくかが課題だと思います。



安政当時の町家造りが復元された内部

男気ある次郎長さんに惚れるのは男として当然のこと。今後は、生家をはじめ菩提寺の梅蔭禅寺そして船宿末廣を活かしまた、「次郎長翁を知る会」の皆さまをはじめ他のまちづくりの団体様とも連携しながら、次郎長さんを地元の〈偉人〉として広め、かつての活気ある「清水のみなとまち」を取り戻すべく微力ながら、これからも皆様のお知恵を借りていきたいと思っています。（了）

＊　＊　＊

「オリンピック・イヤーに生誕二〇〇年」

東京オリンピックが開催される二〇二〇年は、次郎長がこの家に生まれて二〇〇年を迎える年です。この大きな節目を目前にして生家の再建が実現したことは単なる偶然だろうか？いや、編集子にはやはりこれも次郎長が引き寄せるパワーの様な気がしてならない。「咸臨丸事件・壮士墓建立記念事業」の後は早速この「生誕二〇〇年祭」の準備となりそうだ。「次郎長生家を活かすまちづくりの会」の皆様方と協力し、来る日を市民ぐるみの盛大な祝日としたい。

「秋の研修ツアー」

―庵原川の喧嘩仲裁の舞台裏

江尻から甲州津向へ―

平成二十九年度の次郎長翁を知る会秋の探訪ツアーは、『次郎長売出す！庵原川の喧嘩仲裁の舞台裏と富士川舟運の史跡をめぐる旅』と題して、次郎長の侠名を上げるきっかけとなった、弘化二年（一八四五）和田島太左衛門と津向文吉との喧嘩の仲裁をテーマに、駆け出しの次郎長ゆかりの江尻宿にある和田島の太左衛門の墓参。そこを出発点に、津向の文吉の墓を訪ね甲州へ向いました。途次に喧嘩の仲裁現場の庵原川を通過して清見寺に立ち寄り、咸臨丸殉難者の慰霊碑を見学。蒲原・岩淵・富士川沿いを上り鴨狩津向に眠る文吉さんの墓を訪ねました。到着すると子孫の宮澤氏が迎えて下さいました。

「出が〝博打打ち〟と身内が敬遠したから口承は無いよ」としながらも在る限りの文吉さんの資料と墓の解説、実家への案内など暖かい接待を受け、御子孫を通じて『津向文吉』という人物の人柄に触れたように思えました。その後、文吉と竹居安五郎が縄張り争いで火花を散らした鰍沢までのぼり、帰途は江戸期から明治まで米と塩の往復で活躍した富士川舟運の歴史を学んできました。

探訪ツアーの模様はホームページ http://jirocho.com/tanbou.html にて掲載中（中田）

「私と次郎長」

美濃輪『風月堂』　杉山　鋼三

はじめまして私は次郎長翁と同じ美濃輪町で生まれ育ち代々和菓子屋を営んでおります。次郎長翁を知る会には平成の初年代に入会し、翁に関係する人物・史跡を訪れる旅に参加するなど、知識も増え知り合いも増え大変楽しい思いをさせて頂いております。

僭越ながら私のお店では、ジャンボどら焼き『次郎長笠』を販売させていただいております。私自身、清水を愛する想いから、後半生を社会事業に貢献し地元の人々に愛された次郎長翁の懐の大きさに因んで、三度笠をイメージした大きなどら焼きを創ろうと思ったのが、きっかけでございます。お蔭様で好評を頂きまして全国発送もいたしております。しかしそんな中で最近私が感じていることがあります。それは次郎長翁が若い人達によく知られていないという事です。浪曲・映画、昔は年中目にしておりましたが、最近はないので知名度が下がったかなぁと。そこで少しでも皆様に、清水をこよなく愛した次郎長翁を、そして清水を知っていただけたらと、商品の裏側に翁の功績を記すことにしました。

このジャンボどら焼きを通して清水が盛り上がる一助になればと思い、そのような気持ちで家業に日々精進しております。

風月堂　三光町店

御菓子庵　風月堂
電話：054-352-9845（代）
住所：静岡市清水区三光町2-4
工場店 住所：
静岡市清水区清水町9-16
（旧美濃輪町）
営業時間　9:00～19:00
（日曜、祝日は～17:00）
定休日　水曜日

【編集室から】

○平成二十九年度に行った事業として、

・壮士墓の門の左柱が、後ろの木の根の影響で倒壊の恐れが生じたため、静岡市文化財課に報告・依頼し木の根を処理して門柱を真直ぐに修復いたしました。

・次郎長史跡として次郎長堤、壮士墓、美濃輪稲荷神社の3か所への案内板設置しました。

○平成三十年度の事業予定は、

・九月十七日（祝日）咸臨丸事件・壮士墓建立一五〇年記念事業として、午前に壮士墓にて咸臨丸殉難者の供養祭。午後はテルサにて榎本武揚御子孫による特別講演会を予定。それに伴い壮士墓のパンフレットを作成。壮士墓の墓石周囲の破損部の改修工事を行います。

記念事業に向け、咸臨丸子孫の会と連絡を取りただ今着々と計画を進めております。次郎長にとって、また清水にとって大きな転機となったこの事件を見直す機会として、多くの市民にも参加していただいて大いに盛り上げたいと思います。

・次郎長巷談「激動の幕末維新を生き抜いた次郎長」と題して、五月、六月、七月、八月で計四回に分け、船宿末廣にて開催いたします。

・次郎長ウオーキング　平成三十一年二月半ばを予定。波止場から船で三保に渡り、咸臨丸事件の戦闘場所や次郎長の三保開墾地やゆかりの地を巡ります。乞うご期待。

・平成三十年度の探訪ツアーは、次郎長改心の恩人である伏谷如水の生誕二〇〇年を期に如水晩年の地、千葉県市原市を訪ねます。十月頃一泊二日で、途次に山岡鉄舟の眠る東京谷中の全生庵や清水の小島藩ゆかりの木更津方面をめぐる予定です。（詳細は後日会員宛にご案内いたします）

次郎長翁を知る会
会報「次郎長」37号
平成30年6月1日発行
発行／編集
次郎長翁を知る会
会長　山田健司
事務局
（公財）するが企画観光局
清水事務所内
〒424-0806
静岡県静岡市清水区辻1丁目1－3
Tel 054-388-9181　Fax 054-388-9182
www.jirocho.com
minowa.jirocho@gmail.com